

東西のビッグプロジェクトで拡大する国内建設需要

2020年東京五輪を見据えたインフラ整備

2020年の東京五輪に向けた競技会場の建設プロジェクトが進む一方で、同大会を見据えた交通インフラ整備が本格化しています。東京都心と羽田空港を結ぶ新線開設計画のほか、五輪開幕に合わせて山手線と京浜東北線の田町一品川間に新駅の高輪ゲートウェイ駅が開業する予定です。この駅に隣接する形で現在、品川開発プロジェクトも進行しています。また、2020年ごろの完成を目指す東京外かく環状道路（外環道）、そして各高速道路をつなぐ首都圏中央連絡自動車道（圏央道）など、首都圏の輸送効率向上のカギとなる3環状道路の整備計画も進められています。



東京五輪関連工場の現場（臨海部）

2025年大阪万博に向けた再開発計画

2025年国際博覧会（万博）の開催が決定しました。経済効果が約2兆円と試算される万博は東京五輪後の景気浮揚策とも位置付けられ、開催経費3,000億円のうち1,250億円が会場建設などに投入される見込みです。

会場となるのは大阪湾の人工島・夢洲（ゆめしま：総面積390ヘクタール）です。現在、夢洲へのアクセスは道路トンネルに限られているため、約2,800万人と試算される万博来場者を運ぶ輸送手段として大阪メトロ中央線、京阪中之島線、JRゆめ咲（桜島）線など各鉄道の延伸計画が検討されています。今後、湾岸エリアの再開発を含めたインフラ整備が加速すると予想されています。



大阪万博の会場となる人工島・夢洲（写真奥）

夢洲へのアクセス路線構想

- 大阪メトロ中央線
- 大阪メトロ中央線 延伸区間
- 京阪中之島線
- 京阪中之島線 延伸区間
- JRゆめ咲（桜島）線
- JRゆめ咲（桜島）線 延伸区間



第55期第2四半期決算の概況 [2018年11月1日～2019年4月30日]

● 連結経営成績 (累計)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)
第55期第2四半期	91,856 (7.6)	11,266 (2.5)	11,511 (3.2)	7,255 (7.7)	187.62
第54期第2四半期	85,349 (7.8)	10,994 (10.0)	11,155 (8.9)	6,735 (4.1)	190.59

● 連結業績予想 (累計)

第55期通期	175,700 (4.5)	18,400 (4.5)	18,700 (4.3)	12,000 (1.2)	310.30
--------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------

(注) 括弧内の数字は、前年同期増減率(%)を示しております。

[経営環境]

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題の世界経済への影響が懸念されるなど、留意が必要な状況が続きました。

当社グループが関連する建設業界におきましては、公共投資の下支えに加え、民間設備投資についても堅調な企業収益を背景とした維持・更新、省力化への投資、首都圏を中心とした再開発事業など底堅く推移いたしました。一方で、建設コストの高騰や技能労働者不足等、注視すべき状況も継続しております。

このような状況のなか、当社グループは、長期ビジョン「BULL 55」(2015年度～2019年度)の最終年度を迎え、3つの基本方針「国内営業基盤の拡充」「海外事業の展開」「内部オペレーションの最適化」のもと、持続的な企業価値創造に向け、この5年間で当社単体では29拠点を新設、M&Aや業務提携によりアライアンスグループの拠点数も157拠点増加させるなど国内営業基盤の拡充を進め、海外事業も7カ国に拠点展開を行うとともに、昨年導入した新システムを活用したレンタル用資産の適正配置と業務の省力化及び効率化による稼働率の向上等、持続可能な成長基盤の構築をグループ一丸となって取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売

上高は918億56百万円(前年同期比7.6%増)となりました。利益面につきましては、営業利益は112億66百万円(同2.5%増)、経常利益は115億11百万円(同3.2%増)、また、親会社株主に帰属する四半期純利益は72億55百万円(同7.7%増)となりました。

[セグメント別の業績]

建設関連

主力事業である建設関連におきましては、東北の復興需要は減少傾向にありますが、東京五輪関連のインフラ整備や再開発事業など、大型プロジェクトが計画されている大都市圏や、北海道、九州、西日本の災害復旧・復興工事も本格化しており、全体を通じて建設機械のレンタル需要は底堅く推移しました。

なお、中古建機販売につきましては、適正な資産構成を維持するため、一定年数が経過したレンタル用資産を計画的に売却したことから、売上高は前年同期比17.9%増となりました。

以上の結果、建設関連事業の売上高は826億2百万円(前年同期比7.6%増)、営業利益は105億50百万円(同1.9%増)となりました。

その他

その他の事業につきましては、鉄鋼関連、情報通信関連、福祉関連ともに堅調に推移したことから、売上高は92億53百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益は5億5百万円(同13.7%増)となりました。

■ 連結財務諸表

四半期連結損益計算書(第2四半期連結累計期間)

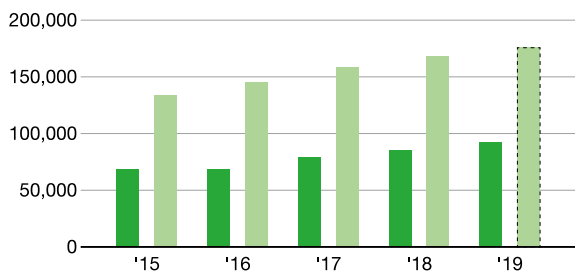
(単位:百万円)	第54期第2四半期 (2017.11.1~2018.4.30)	第55期第2四半期 (2018.11.1~2019.4.30)
① 売上高	85,349	91,856
売上原価	58,052	63,350
売上総利益	27,297	28,505
販売費及び一般管理費	16,303	17,239
② 営業利益	10,994	11,266
営業外収益	376	441
営業外費用	215	195
③ 経常利益	11,155	11,511
特別利益	12	61
特別損失	234	70
税金等調整前四半期純利益	10,933	11,501
法人税、住民税及び事業税	3,724	3,819
法人税等調整額	△ 86	△ 162
四半期純利益	7,296	7,844
非支配株主に帰属する四半期純利益	561	588
④ 親会社株主に帰属する四半期純利益	6,735	7,255

四半期連結包括利益計算書(第2四半期連結累計期間)

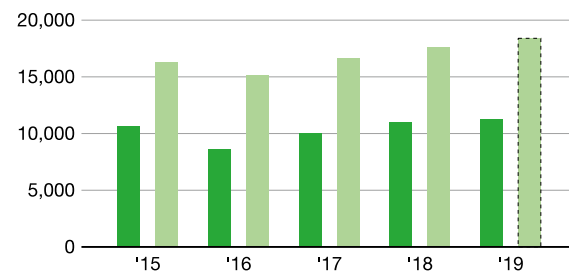
(単位:百万円)	第54期第2四半期 (2017.11.1~2018.4.30)	第55期第2四半期 (2018.11.1~2019.4.30)
四半期純利益	7,296	7,844
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△ 127	△ 250
繰延ヘッジ損益	△ 0	△ 0
為替換算調整勘定	4	△ 33
退職給付に係る調整額	△ 0	△ 0
その他の包括利益合計	△ 124	△ 284
四半期包括利益	7,171	7,560
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,616	6,972
非支配株主に係る四半期包括利益	555	587

■ 第2四半期 ■ 通期 ■ 通期予想 単位:百万円

① 売上高



② 営業利益



四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)	第54期 (2018.10.31)	第55期第2四半期 (2019.4.30)
(資産の部)		
流動資産	96,448	117,736
固定資産	144,926	151,186
有形固定資産	129,508	137,066
無形固定資産	1,580	1,562
投資その他の資産	13,837	12,558
資産合計	241,374	268,923
(負債の部)		
流動負債	74,267	84,957
固定負債	65,075	65,370
負債合計	139,342	150,328
(純資産の部)		
株主資本	93,526	110,529
資本金	13,652	17,829
資本剰余金	14,916	19,276
利益剰余金	67,086	73,432
自己株式	△ 2,129	△ 9
その他の包括利益累計額	2,153	1,870
その他有価証券評価差額金	2,148	1,898
繰延ヘッジ損益	0	△ 0
為替換算調整勘定	-	△ 33
退職給付に係る調整累計額	5	4
非支配株主持分	6,351	6,194
純資産合計	102,031	118,594
負債純資産合計	241,374	268,923

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	第54期第2四半期 (2017.11.1~2018.4.30)	第55期第2四半期 (2018.11.1~2019.4.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,716	25,528
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,562	△ 1,649
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,250	△ 10,038
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,903	13,840
現金及び現金同等物の期首残高	35,160	36,733
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	390
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,063	50,963

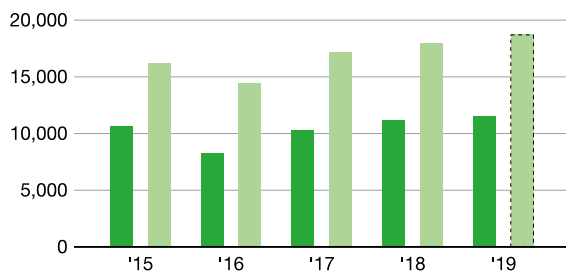
とってもいいモノ・読者プレゼント

巻末のアンケートハガキをご返送いただいた方の中から、抽選で50名様に当社のオリジナルノベルティグッズをお贈りします。
今号のプレゼントは、カナモト坊やのスポーツタオルです。ほどよいボリューム感で吸水性もよく、使い勝手の良いサイズなのでスポーツやお風呂などさまざまな用途でお使いいただけます。



ご応募の締め切りは2019年8月2日(金) 当日消印有効です。
なお、当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

③ 経常利益



④ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

